

英国におけるロックダウン中のオンライン学習支援

一般財団法人マルチメディア振興センター（FMMC）
ロンドン事務所 リサーチャー ザボロフスキ 真幸



はじめに

2020年3月23日、英国は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による全国的なロックダウンに入ることがジョンソン首相から発表された。当初、少なくとも3週間とされたロックダウンだったが、5月10日にジョンソン首相がロックダウンの段階的な緩和の計画を発表し、6月23日にはイングランドで7月4日からの更なるロックダウンの緩和が発表されるまで約15週間続いたことになる。

ロックダウン中、義務教育下の子供たちの学習をサポートするために、英国では多くの小・中学校で生徒及び保護者とオンラインを介して自宅学習が進められた。教育省は、脆弱な状況下にある子供たちを対象としたデジタル端末及びドングルの提供を行い、BBCではテレビ、ウェブサイト、アプリ等を介して、国の教育課程に沿った大規模な教育プログラムを提供するなど、オンライン学習を支援するための様々な取組が実施された。本稿では、英国の教育省のオンライン学習支援、また教育省から勧められたオンライン学習リソースをまとめ、英国でどのようにオンライン学習が進められたかを報告する。

1. 教育省によるオンライン学習支援のためのデジタル端末の提供

教育省は、2020年4月21日、脆弱な状況下にある子供たちを対象に、ロックダウン期間中のオンライン学習を支援することを目的に、ラップトップ、タブレット、4Gドングルを提供すると発表した。

具体的には、5月～7月の間に、デジタル端末を所有していないソーシャルワーカーを必要とする学校児童、ケア・リーバー（社会的養護経験者）、恵まれない状況¹にある10年生（14～15歳）を対象に、デジタル端末が提供され、インターネットにアクセスできないソーシャルワーカーがいる中等学校の生徒、ケア・リーバー、恵まれない状況にある10年生を対象に4Gドングルが提供された。

地方自治体、アカデミー・トラスト（中央政府と直接契約を結んで公費で学校を運営する会社）、その他の関連組織には、恵まれない立場にある生徒を対象とした端末のオンライン注文方法に関するガイダンスが提供され、地方自治体及びアカデミー・トラストが必要な端末の推定数をオンラインで注文する流れとなった。（保護者、生徒は自ら端末を注文することはできないため、

¹ 家庭にデジタル端末が無い場合、スマートフォンのみが利用可能な端末である場合、他の複数の家族と1つのデジタル端末を共有しないとしない場合、自宅に固定ブロードバンド接続が無い場合等。

学校に要相談することが勧められた。) 注文されたラップトップ、タブレット、4G ドングルは、教育省と提携する英 Computacenter 社²によってセキュリティ及び保護設定がされた後、配送された。また、教育省は、配布された世帯、子供、若者に関する情報を一元的に記録はしておらず、情報は地方自治体及びアカデミートラストによって管理された。

教育省による同取組は、広く利用され、8月に教育省が発表したデータ³によると、地方自治体、アカデミートラストに対し、合計で22万を超えるラップトップ及びタブレット、5万を超える4G ドングルが提供されたことが明らかになっている。

さらに、教育省はオンライン学習リソースとして、①BBCの教育プログラム「Bitesize Daily」、②ロックダウン中の学校閉鎖に対応するために、英国中の教師陣によって作成された無料のオンライン授業リソースである「Oak National Academy」を推薦している。以下、教育省が勧める二つのオンライン学習リソースをみていくこととする。

2. BBCによる一連の教育プログラム

(1) BBCによる教育番組の提供

ロックダウンが開始してから4月3日、BBCは英国の児童が国の教育課程を継続して学ぶ機会を保証するための取組として、14週間に渡る教育プログラムを提供することを発表した。英国では、ロックダウンが始まった3月23日からの3週間の間にイースターホリデーを挟んでおり、英国のほとんどの学校でイースターホリデー明けの4月20日から学校が再開予定となっていた。しかし、ロックダウンが延長されたため、BBCでは、新学期が始まる4月20日から政府が定める教育課程に沿った様々な教育コンテンツをテレビ、オンライン等で配信とした。この包括的な取組は、児童の教育の混乱を最小限に抑え、困難な時期に児童に学習習慣を提供することを目的としており、BBCは、教師、教育プロバイダー、教育省、ウェールズ政府、スコットランド政府、北アイルランド行政機関と緊密に連携して、国家の教育課程に沿ったオンライン学習を提供するとした。具体的なコンテンツは以下のとおり。(全てのコンテンツは学年別で提供される)

- BBC Bitesize ウェブサイト: 政府が定める教育課程に沿って様々な教育材料を提供する。初等教育段階であるKS1(第1、2学年)とKS2(第3~6学年)、中等教育段階であるKS3(第7~9学年)とKS4(第10、11学年)でコンテンツが分かれている。(また、イングランド、スコットランド、北アイルランド、ウェールズにもよって分かれている。) 各教育課程では学校で取り扱われる授業のリソースが提供されており、英語、数学、歴史、地理、理科、コンピューター、芸術、体育、音楽、宗教、言語(フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語)等と幅広い教科がカバーされている。その他、

² 企業及び公共セクター機関向けに情報テクノロジー及び関連サービスを提供するITサービス会社。

³ https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/912888/Devices_and_4G_wireless_routers_progress_data_as_of_27_August_2020.pdf

ポッドキャスト、ビデオ、クイズ、授業など、すべての教育リソースのワンストップソリューションになる。(Bitesize 自体は、今回初めて作られたものではなく、20年以上、教育課程に沿った無料オンライン学習サポートリソースを提供している。)

- BBC Bitesize Daily : 5~14歳までを6つのカテゴリーに分け、BBC iPlayerで、毎日20分間に及ぶ教育課程に沿ったレッスンを放送する。数学、英語、理科といった教科に加え、スポーツ、文学等様々なトピックを提供する。
- BBC iPlayer (BBCのオンライン視聴サービス) : 特別にキュレーションされたコンテンツを提供し、教育課程に沿ったビデオやプログラムを提供する。
- BBC サウンド : 小学校及び中学校の保護者を対象とした家庭学習及び健康に関する二つの新しい教育ポッドキャストを提供する。
- BBC Four : 平日の夕方に、全国統一試験であるGSSE及びAレベル関連のプログラムを提供する。

BBCによる教育への一連の取組に対して、トニー・ホールBBC会長(当時)は、以下のように語っている。「この包括的な教育パッケージの取組は、BBCがこれまでに行った中でも最大の教育への取組であり、BBCだけが提供できるものである。子供たちが学習を続けるためのアクセスとサポートを確保するために教師、学校、保護者と協力して国が私たちに必要とするときに、BBCがサポートできることを誇りに思っている。」

さらに、デジタル・文化・メディア・スポーツ省のオリバー・ダウデン大臣も、「同取組は、公共放送ができることで最高の取組であり、学校が閉鎖されている間、英国中の何百万人もの子供たちに大きな影響を与えるだろう。BBCが政府と緊密に連携して、この困難な時期に子供たちが確実に教育を受け、情報を得、楽しむことができるように支援できることを嬉しく思う。」と述べるなど、BBCの取組は高く評価された。

(2) BBCの教育コンテンツの利用動向

4月20日に放送が開始された「BBC Bitesize Daily」の利用者は、ロックダウン期間中に増加し続け、BBCが5月に発表したBBC iPlayerにおけるBitesize Dailyの視聴リクエスト数は、4月20日以降、5月時点で10倍以上に増加した。

英国の緩やかなロックダウン緩和に伴い、政府は6月1日から幼稚園の年長に当たる「レセプション」の児童と、小学校の1年生及び6年生から授業を再開すると発表した。(しかし、学校へ子供を登校させるかどうかは保護者が決めてよいこととなり、学校に子供を通わせないと決めた保護者に対し、ペナルティは課さないとされた。)同状況を受けて、BBCは当初2週間としていたBitesize Dailyを7月中旬の学年末まで提供し続けることを発表。結果として、4月から始まったBitesize Dailyでは、計2,000時間のレッスンが提供され、iPlayerでは7月中旬に放送が終了した時点で視聴リクエスト数は550万件となった。また、BBC Bitesize ウェブサイトのアクセス数は、前年同期比の121%増となる週平均380万人となるなど、BBC Bitesizeは、バーチャルスクールとしてロックダウン中に多くの子供に利用された。

さらに、ロックダウン中は、Bitesize 以外の BBC の子供向けの教育コンテンツの利用も著しく増加し、BBC の未就学児向けテレビチャンネル「CBeebies」及び6歳～12歳向け「CBBC」における BBC iPlayer 上のリクエスト数は、4月から6月までの間に81%増となる週平均3,800万件となり、iPlayer の全体リクエスト数の4分の1を子供向け番組が占めるようになった。

その他、CBBC のウェブサイトの利用者数は、前年同期比57%増となる週平均50万人以上、CBeebies のウェブサイトでは、週平均30万人以上が利用した。CBeebies ラジオは、未就学児の視聴者を多く獲得し、前年同月比の同じ時間枠と比べて151%増の視聴者数となった。

BBC Children's and Education のソフィー・ジェイコブ代表代理は、「これらの数値は、すべての年齢層の視聴者が困難な時期に BBC を利用していることを反映しているだけではなく、視聴者が望むすべての方法でコンテンツを利用できるようにする必要性を示している。私たちの若い視聴者は、常に進化しており、私たちも同時に進化し続けることが非常に重要である。」と述べ、BBC のコンテンツを多様な視聴者にリーチするために、コンテンツの提供方法も幅広い選択肢を与えることの重要性を強調した。

3. Oak National Academy

オンライン授業及びリソースのハブである「Oak National Academy」は、COVID-19 のパンデミック中の学校閉鎖に対応して、英国の教師、学校、教育機関のグループによって設立され、2020年4月19日に公開された。同ウェブサイトでは、小学校の生徒に1日3時間相当、中学校の生徒に1日4時間相当の授業を提供し、レッスンは、教師の授業、ビデオ、クイズ、ワークシートの組み合わせによって作成されている。

Oak National Academy は、ロックダウン期間から夏休みに入るまでの期間である4月20日～7月12日までに1,500万時間のビデオ素材を含む2,000万弱のレッスンを提供した。また、Oak National Academy が公表したデータによると、Oak National Academy ユーザー数は、470万人以上⁴となり、毎日平均22万ユーザーが利用したことが明らかになっている。さらに、Oak National Academy のアセンブリー（全校集会）の動画では、キャサリン妃（ケンブリッジ公爵夫人）がスピーチを行い、当日のユーザー数は、通常より5万人以上多くなった。

ユーザー動向では、初等教育段階であるKS1（第1、2学年）で24%、（第3～6学年）で53%、中等教育段階であるKS3（第7～9学年）、KS4（第10、11学年）でそれぞれ15%がOak National Academy を利用した。高学年になるほど、科目の選択、または特定の学習に対してカリキュラムがより具体的になることから、カリキュラムに合わないという理由でリソースにアクセスするユーザーが少なくなった。

一方、教師によるOak National Academy 利用の主な理由は、仕事量の削減のため（33%）、教育及び学習の質の向上（27%）、計画の複雑さを軽減するため（16%）、より効果的なカリキュラムの導入のため（13%）となった。

Oak National Academy は、需要の高さから、ロックダウン後も運営を継続することを発表。

⁴ この数は、端末ごとに計算されているため、世帯内の複数の人が1つの端末でOakを使用した場合、総数は増える可能性があると考えた

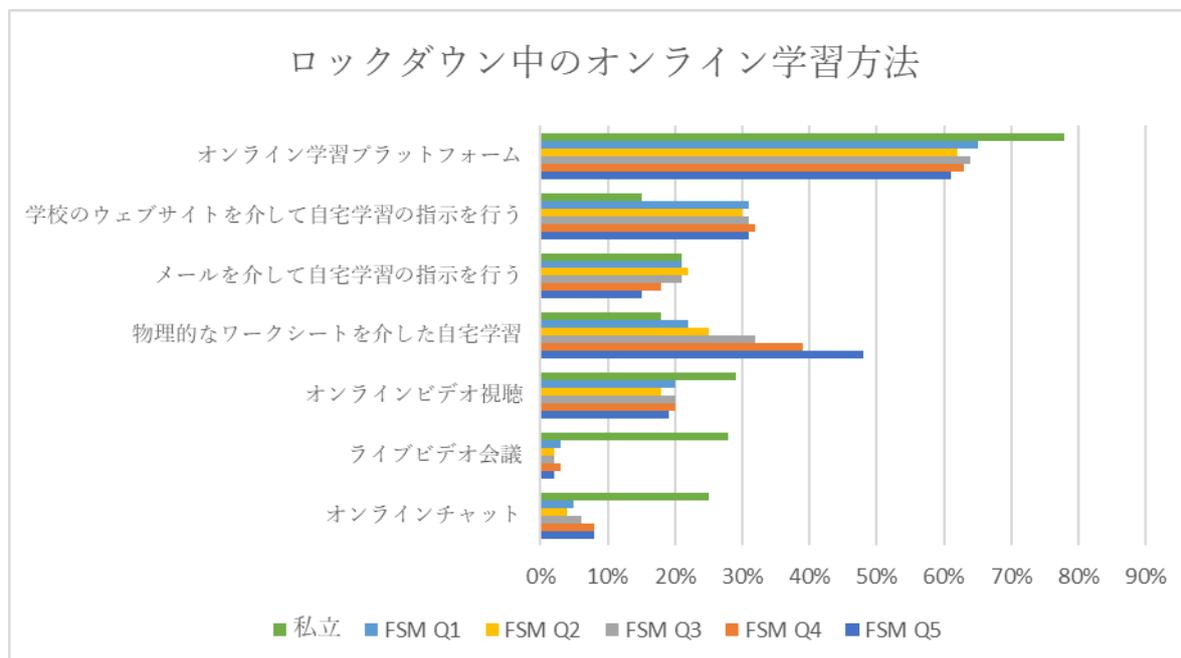
教育省からは Oak National Academy に 2020/21 の運営継続のために 430 万ポンドの資金を提供することが発表されている。

4. 英国のオンライン学習動向

ここまで、オンライン学習支援の取組を見てきたが、実際にどのように学校と子供、保護者がオンラインを介して自宅学習を進めてきたかその実態を見ていきたい。英教育慈善団体の「Sutton Trust」が 2020 年 4 月に発表した「COVID-19 とソーシャルモビリティインパクトブリーフ」は、ロックダウン中の英国学校のオンライン学習提供状況及び学生の学習動向について詳細を示している。

図①では、ほとんどの学校がオンライン学習プラットフォームを介してオンライン学習を進めたことが明らかになっている。オンライン学習プラットフォームとは、オーディオ、動画及びテキストコンテンツをプラットフォーム上で提供できると共に、学生及び保護者と連絡を取り合う場所ともなり、自宅学習の指示、課題の受理、追跡するシステムが一元化されたポータルのごとで、各学校の利用割合は最も高くなった。続いて、「学校のウェブサイトを通じて自宅学習の指示を行う」、「メールを介して自宅学習の指示を行う」となった。

一方、低所得世帯の割合が高い地域では、物理的なワークシートまたはワークブックを介して自宅学習を進めた割合が、他の地域と比べて非常に高いことが明らかになっている。（低所得世帯の割合が最も高い地域における公立学校で、物理的なワークシートまたはワークブックを介して自宅学習を進めた割合は、48%であったのに対して、低所得世帯の割合が最も低い地域では 22%となった。）調査では、生徒の多くがオンラインで提供されるコンテンツにアクセスできない可能性が指摘された。また、相当数の私立学校は、ライブビデオ会議（28%）とオンラインチャット（25%）を提供する割合が高く、公立学校との違いが明らかになった。

図①⁵ ロックダウン中のオンライン学習方法

(出所) COVID-19 とソーシャルモビリティインパクトブリーフ報告書を基に作成

また、ロックダウン期間中の子供がオンライン学習に費やした一日当たりの時間は、小学生で3時間が最も多く（27%）、続いて4時間（24%）、2時間（23%）、5時間以上（11%）となった。中学生では、4時間（28%）、3時間（24%）、5時間以上（19%）、2時間（15%）となった。

インターネット接続のある端末へのアクセスについては、低所得世帯の割合が最も高い地域では、教師の15%が学校の3分の1以上が十分なアクセスができないと考えていると回答した一方、低所得世帯の割合が最も低い地域の学校の教師は2%にとどまった。

また、各世帯のインターネット接続のある端末数に関して、中央値の世帯は4台のインターネット接続端末があると回答している。

調査では、オンライン学習では、地域間、また世帯間での格差が広がることを指摘し、政府がすべての子供が必要なリソースを確保できるように支援する必要性、教師向けのオンライン学習のトレーニング、ガイダンスを提供することが求められた。また、低所得地域の生徒に対しては、追加の1対1または小グループのオンライン授業へのアクセスが必要であるとも指摘された。

⁵ FSM: Free School Meal フリー・スクール・ミールとは、生活保護や失業保険など政府から補助を受けている世帯の給食費が無料になる制度。同図では、FSM Q1を最も裕福な地域（低所得世帯の割合が低い）FSM Q4を最も貧しい（低所得世帯の割合が高い）としている。

5. 結び

英国では、ほとんどの小中学生が3月後半から夏休みに入るまでの期間、オンライン学習を自宅で行うことになったことに対して、教育省の動きの他にも、デジタル・文化・メディア・スポーツ省（DCMS）及び内務省がオンラインで安全を確保するためのガイダンスを発表している。その中には、セキュリティ及びプライバシー設定の確認、不適切なコンテンツのブロック、フィルタリングの設定、詐欺メールやテキストの注意喚起といった項目が保護者及び子供の世話をする人に向けて詳しく言及され、オンライン学習を行う子供たちの安全を守る方法が示された。

一方、オンライン学習に欠かすことのできない通信接続を提供し、ネットワークトラフィックの増加を維持し支えた、英国の主要な電気通信事業者は、DCMS省とパンデミック状況下での脆弱な消費者を支援及び保護するために、消費者への公正かつ適切なサポートの提供、既存の全固定ブロードバンドサービスのデータ許容量の上限の取り払い、固定ブロードバンド及び固定電話の優先修理が実行できない場合に、脆弱な顧客または自宅待機をしている顧客に対し、可能な限り通信方法の代替手段を提供することを保証するといった、一連の措置に合意した。また、BTは、教育省とのパートナーシップにより、脆弱な状況下にある子供たちを対象に、6か月間無料のWi-Fiアクセスを提供、ポーダフォンは、月額契約顧客及び脆弱な立場にある顧客に対し、無制限のモバイルデータを30日間無料で提供、O2はすべての月額契約顧客に対し、国内の音声通話の上限をなくし、無制限の音声通話を提供すると発表した。さらに、O2やテスコモバイルは、古いまたは未使用のスマートフォンの寄付を促す取組を実施するなど、ロックダウン期間中にオンライン学習を含む自宅でのコネクティビティを維持する様々な取組が実施された。

そのような中、Sutton Trust調査の結果にもあったように、多くの公立学校はオンライン学習プラットフォームを介して生徒及び保護者と連絡を取り合い、自宅学習を進めた。筆者の小中学生の子供も、教師からオンライン学習プラットフォームを介して、毎朝課題が届けられ、その課題を写真、動画等で当日提出し、担任の教師から課題に対するコメントを貰うという流れをとっていた。学校によっては、毎日ではなく1週間に1度課題を提出するなど、程度の違いはあれ、ほとんどの学校がオンライン学習プラットフォームを使用していた。学校側も、オンラインで提出された課題を毎日確認、コメントをしておき、授業の動画を作成するなどオンライン授業は決して楽なものではない印象を受けた。また、BBCのBitesize Daily及びウェブサイトのコンテンツは、学校の授業に合わせて当日の課題として参照するように勧められるなど、積極的に利用されたことも印象に残っている。

英国、日本を含めパンデミックの第2波が懸念されている。また、ロックダウンとなり学校閉鎖となった時に、オンライン学習がライブビデオ会議、オンラインチャットの使用といった更に、インタラクティブな授業になることを期待する。同様に、インターネットへのアクセス方法を持たない世帯に対して端末、無料データの配布が更に進むことを願っている。今後の英国のオンライン学習動向に、引き続き注視していきたい。